



でも やわらかく

代表：
平川秀幸
連絡先：
小森政孝（ATTAC 京都事務局）
TEL/FAX 075-706-3875
E-MAIL kattac@talktank.net
Homepage <http://kattac.talktank.net/>

第5号 2003.6.24（火）

水だけじゃないぞ！
エヴィアン・G8の行方



日本での抗議行動の様子（@東京）



敢然と attac <%> !
エヴィアン現地での抗議行動



アンチだけじゃないぞ！

G8 に対しての < 代案提示型の活動 > の大切さ

現地報告 春日 匠 (attac 京都)

高かりしは、エヴィアンの壁・・・ではなく

G8 サミットの行われるエヴィアンの街が封鎖されたため、NGO はスイスとフランスの国境地帯に集まった。スイス側がジュネーヴであり、フランス側がアナマスである。アナマスの街にはフランス政府によってテント村もオープンしており、当局は「NGO の言論の自由を守っている」と大威張りである。もちろん、体よく隔離して管理しやすくしているように見えないこともない。

そこには、ジョゼ・ボヴェ本人が

ATTAC を含めた各 NGO は、町の公民館のような施設を使って、グローバル化問題を考えるシンポジウムを開催していた。その中には、第三世界から講演者を招いてのものや、ジョゼ・ボヴェらによる GMO 問題を考えるものも含まれていた。これはポルト・アレグレを発祥の地として、世界各地で展開されている「社会フォーラム」型の方法をうまく利用した運動形態であると言える。デモのみを行うのではなく、こうした代案提示型の活動を積極的に展開したことはエヴィアン G8 の特徴である。ヨーロッパのメディアも、ジェノヴァ・サミット抗議運動の時に見られた混乱と行き詰まりを NGO 側がうまく克服したと見て、高い評価を与えた。

NGO 側の対処

もともと、各国からの参加者も述べていたことであるが、G8 は WTO 閣僚会議に比べて、なにを争点にしたら良いかということ自体も曖昧である。まして、イラク戦争における米英と欧州大陸諸国の溝が埋まっておらず、あらかじめ大したことが決められないことは明らかであった今回のサミットは、NGO にとっても対応の難しい問題であったといえる。そんな状況の中で、社会的な注目を利用して代案提示型の運動を行ったことは大きな成功であったと評価できるだろう。

ATTAC ヨーロッパ

30 日、G8 に対する抗議行動の合間を縫うように、ジュネーヴではスーザン・ジョージらと交えて ATTAC ヨーロッパの会合が行われた。ここでの議題のうち、二つは「ATTAC のアイデンティティをどう認証するか」と「今後の活動方針」というものであった。遠い日本から見ると解決されているかに見えるが、実際的な方針についても哲学的な基盤についても、実際はまだ議論百出の状態であった。

“ 発展途上 “ の ATTAC

おおまかな方針としては、各国の ATTAC が独立を保って個別に運動を続けるという方向性は守った上で、各国の活動報告をまとめた年鑑や、どんな地域の ATTAC がどんな問題について活動しているかを明らかにしたイエローページのようなものをつくって、相互の協力や全体としての方向性を模索していく、というのが今回のおおまかな合意となった。また、第三世界の ATTAC 活動を支援するための基金の設置なども討議された。

日本人はレア・アイテム??

サミットが開始される 6 月 1 日には、フランスとスイスをまたがって大規模なデモが行われた。日本からの参加は目立ったようで、歩いている最中も何度か現地メディアのインタビューを受けることになった。もちろん、珍しがられているようではまだまだなわけで、今後日本からもこういった問題に継続的に係わっていくことが重要であろう。



Blow the whistle on the G8

By Amnesty International

attac 京都 各部会、
各グループからのレポート

【トービン税 部会】 レポート・・・鈴木@田中一郎さん

トービン税は、何と言ってもATTACの中心的な目標です。トービン税部会では、「もう一つの世界」への第一歩として、トービン税について学ぶとともに、まわりにその考え方を広げていこうとしています。いままでに、トービン税について解説したリーフを作成しましたが、この漫画版の作成も計画しています。

また、国会でトービン税の是非について議論することをまとめる署名を集めたり、この署名への賛同団体を集めたりもしていきたいと考えています。

国際金融の問題はなかなか難しいのですが、分かりやすく伝えていけるように、しっかり勉強していきたいところです。

国際金融に詳しい人、興味のある人の参加はとくに大歓迎です。

【地方自治 部会】 レポート・・・山本崇記

地方自治部会では、反グローバリゼーション運動の「場」として、地方圏という単位に着目し、京都圏の社会問題に焦点を当て、足元の課題からグローバル化のもたらす諸問題に取り組んでいます。

現在は、世界社会フォーラムが開催されたブラジル・ポルトアレグレ市やイタリア・ボローニャ市の研究を通じて「自由都市」「創造都市」の可能性を追求しています。また、京都圏内で先進的取り組みをしている商店街や中小企業の活性化の知恵をフィールドワークを通じて学習したりもしています。

その他、地域通貨の可能性を模索したりもしています。これらの活動を通じて京都圏内の様々な社会活動を繋げつつ、自律的な空間＝地方圏を創り出すことを目指しています。

地方自治・地方経済・住民運動・市民参加などなど、関心のある方は是非参加してください。

【食と農グループ】 まとめ・・・島田理聡さん@attac 京都@k・attac 編集部

世界水フォーラムの開催とバンダナ・シヴァさん来日にあわせて行った『悠流 2003～世界を結ぶ水とスローライフ～』では、6/23 青空市場 に約 90 名、26 星空市場 には 120 名以上の方のご参加を頂きました。市場の楽しさを実感できて、有機農の取り組みをしている人たちと出会えたことが、何よりも大きな収穫でした。

日本の食糧自給率は先進国の中でも最低で、40%そこそこ。WTO 農業交渉でさらに食料輸入を迫られている今、地に足のついた地道な活動が本当に必要とされているのだと思います。

グローバリゼーションの中で水や食・農に何が起きているのか、これからも継続して考えていきたいと思っています。

どちらさんもお気張りやす



書評

By 中西得之

アホでマヌケなアメリカ白人

マイケル・ムーア著、松田和也訳、柏書房

まず先に、白状しとかなきゃならない。

オマヌケな題名と表紙、かるーい文体に惑わされて、わたくし、この本が出てから約半年間、生協の書店で目にしながら「たいしたことなさそう」と無視し続けていたのだ。しかしそのユーモアの裏には、アメリカの持つ潜在的問題を暴き出す精神にあふれている。「景気が悪い悪い」と言い続けることで、労働者を失業の恐怖に追い込み、反乱する意欲を削いでいる等と言った主張など、もっともだ。第11章の「人民の祈り」など、タダの祈りではない。これは読んでのお楽しみ。

ムーアは「真の問題はブッシュではなくて民主党だ」と主張する。民主党も共和党も企業寄りである。ビジネス優先党に対する真のカウンターパートが出現すれば、共和党などひとたまりもないというわけだ。

日本にもかぶせて考えることはできないだろうか。



これが“俺たち”の国アメリカの真実だ！

百万長者の数は、俺たちがナンバーワン。億万長者の数も、俺たちがナンバーワン。軍事予算の総額も、俺たちがナンバーワン。捨てるゴミの量も、俺たちがナンバーワン。二酸化炭素排出量も、俺たちがナンバーワン。記録された強姦件数も、俺たちがナンバーワン。批准していない国際人権条約の数でも、俺たちがナンバーワン。少年犯罪者の処刑の数も、俺たちがナンバーワン。

小森クンのお仕事ひろば